Video Workshop | Internal Medicine

Sat. Nov 21, 2026 8:30 AM - 10:00 AM JST | Fri. Nov 20, 2026 11:30 PM - 1:00 AM UTC | Room 8 (1F 108)

Video Workshop 7 Endoscopic Treatment of Colorectal Tumors: From Basic to Advanced Techniques

司会：浦岡 俊夫（群馬大学大学院医学系研究科内科学講座 消化器・肝臓内科学）、山口 直之（長崎大学病院　光学医療診療部）

[VWS7-8] Closure of mucosal defects after colorectal ESD using twist-and-drag loop clip closure (TDL) method

*Tomoki Horikawa[1] (1. Department of Gastroenterology, Hyogo Medical University School of Medicine)

大腸内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) は大腸腫瘍に対する低侵襲治療として確立されているが、技術的煩雑さにより遅発性有害事象のリスクを伴う。大腸ESD後の予防的粘膜欠損閉鎖は後出血や遅発性穿孔の減少が期待されている。これまで様々な閉鎖法が報告されてきたが、依然として技術的難度やコスト面での課題がある。
我々は再開閉可能なクリップと歯科矯正用ゴムのみを用いた簡便な閉鎖法「Twist-and-drag loop clip closure (TDL)」を考案した (Horikawa T, et al. Endoscopy 2026)。これは、ゴムを付随したクリップを粘膜欠損口側端に取り付け、再開閉可能なクリップでゴムを巻き付け肛門側へ引き寄せて両側粘膜を閉鎖する方法で、大きな粘膜欠損に対しても効果的である。類似した閉鎖法の報告もあるが、TDL法は安価な歯科矯正用ゴムを使用することで、必要に応じて複数回の手技を行うことができる。症例に応じて粘膜下層の死腔予防のために筋層把持クリップを用いたdouble-layered suturingも併用している。本発表ではTDL法の実際について手技のコツなども含めて動画を用いて紹介する。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会